様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２６ 日現在

機関番号：３２６１５
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2020～2023
課題番号：２０Ｋ００５７８

研究課題名（和文）A crosslinguistic study of prosody of particles: Japanese and Bantu languages

研究課題名（英文）A crosslinguistic study of prosody of particles: Japanese and Bantu languages

研究代表者
李　勝勲（Lee, Seunghun）

国際基督教大学・教養学部・上級准教授

研究者番号：２０７７０１３４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：この研究では、日本語、ツォンガ語、スワヒリ語の不変化詞のプロソディーを調査した。現地調査はコロナ禍で中止、代わりにオンラインで研究を継続した。日本語プロソディーでは、不変化詞の基底声調と語根の声調パターンの影響を受けた。句頭は焦点の顕著実現で、句の境界には交絡要因が存在することが示唆された。ツォンガ語では、フレーズの長さがプロソディー的地位に影響し、統語構造と韻律構造のミスマッチを示した。スワヒリ語の/tu/は、文のプロソディーにグローバルな影響ではなくローカルな影響を与えた。この通言語的研究により、不変化詞は形態統語構造から離れ、プロソディー的に語根から独立しうることが示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
この研究では、文構造や接辞の位置が異なる2つのバントゥー言語と日本語を比較して、不変化詞のプロソディーの共通点について調査した。プロソディーから独立した不変化詞（日本語の平板型、スワヒリ語では/tu/）と、語幹にくっついたもの（ツォンガ語の接頭辞、日本語の起伏形）がある。抽象的なレベルでは、言語には共通点が多いことを示しており、言語の違いは、むしろ表面的なものである可能性を示唆している。

研究成果の概要（英文）：The grant spent four years studying particle prosody in Japanese, Xitsonga, and Swahili. Field data collection was hampered by the COVID pandemic, but project members used online methods to continue the research. In Japanese, prosody was influenced by the lexical tone of particles and the tonal patterns of root words. Focus realization was less pronounced at the beginning of a phrase, suggesting the presence of confounding factors at phrase boundaries. In Xitsonga, the size of a phrase affected the prosodic status of a particle, showing a mismatch between syntactic and prosodic structures. The exclusive particle /tu/ in Swahili showed a local rather than a global influence on sentence prosody. This cross-linguistic study showed that particles can be prosodically independent of their root, deviating from the morphosyntactic structure.

研究分野：Prosody-Syntax Interface, Phonetics, Tone

キーワード：Prosody　Particles　Japanese　Xitsonga　Swahili

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

人間が発する文は、複雑な構造のプロソディーを持っている。プロソディーに関する研究は、主に文が示す全体的なイントネーションに焦点を当ててきた。しかし、文にはニュアンスの表現に寄与する不変化詞（particle）が多くある。このプロジェクトは、南アフリカ北東部で話されるバントゥー語のひとつであるツォンガ語（Xitsonga）の観察から始まった。

ツォンガ語には、複数の音節に拡張して実現する高声調（H）があるが、そのような H 声調の拡張（spreading）はブロックされる場合がある。ツォンガ語の [ni ʃaβa tiŋgulu:ße]「私は豚を買う」という文は、すべての音節に H が実現しない。しかし、文の主語が ni「私」から ú「彼」に変わると、[ú ʃáβá tíŋgúlú:ße]「彼は豚を買う」となり、接頭辞 /ú/ の H 声調は左から右に拡張し、句の最終音節を除くすべての音節が H になる。[ú ʃáβá tíguluße timbi:rí]「彼は豚を 2 匹買う」のように目的語が複数の語から構成される場合、H 声調は名詞クラス接頭辞 /ti-/ まで拡張するが、それ以上には広がらない。接頭辞 /ti-/ は名詞句 /ti-guluße timbiṛí/「二匹の豚」に属するが、H の動きからわかるように、文のプロソディーは、/ti-/ を含む名詞句のプロソディー構造から自立的に形成されていることを示している。

本研究では、助詞を含む名詞句のプロソディーが、文全体のプロソディーとどのように相互作用するかという問題を扱う。特にこのプロジェクトでは、このような接辞がどのようなプロソディーパターンを引き起こすのか、あるいは文法（構文）の構造的な違いがどのようなプロソディー的振る舞いをもたらすのかを知るために、日本語、ツォンガ語、スワヒリ語などの言語を調査する。これらの疑問に答えることで、これまでの研究では見過ごされがちであった文のプロソディーの未解明な部分を理解することができるだろう。

２．研究の目的

このプロジェクトの主な目的は、日本語、スワヒリ語、ツォンガ語における声調の有無が不変化詞とどのように相互作用するか、声調言語と非声調言語における不変化詞のプロソディー文法を探求することである。また、不変化詞の位置と声調の有無との類型的な関係にも注目する。日本語は接尾辞言語であり、バントゥー諸語は接頭辞言語である。接辞の位置と声調の類型を比較対照することで、類型に基づく言語間の違いをバランスよく理解することができる。

対象言語	接頭辞系	接尾辞系
声調	ツォンガ語	日本語（標準変種）
非声調	スワヒリ語	日本語会津方言

このプロジェクトの意義は、プロソディーの観点からまだ十分に理解されていない文の不変化詞の特性を理解することにある。不変化詞の目録やその機能については知られているが、プロソディーと構文の接点に焦点を当てた研究は比較的少なく、不変化詞のプロソディーにおける役割についてはあまり研究されていない。このプロジェクトはこのギャップを埋めることを目的としている。

研究代表者は、記述的統語論に加え、未解明の言語の詳細な音声学的・音韻論的記述に取り組んできた。この知識は、このプロジェクトにおける二つの重要な目標を達成するのに役立つ： (1) 統語論と音韻論の両方から文のプロソディーにおける不変化詞の問題に取り組むこと、(2) 日本語と二つのバントゥー語（スワヒリ語とツォンガ語）の不変化詞のプロソディーを通言語的に比較するための文のセットを含むデータベースを構築すること、である。

本研究は、二つの異なる言語グループからデータを収集することで、これまで明らかではなかった通言語的な一般化が可能になった。とくに以下の2点に、本研究の独自性が反映されている。

第一に、同じ語族に属する言語の声調体系と非声調体系を比較する点である。多くのバントゥー諸語は形態統語的な均質性がきわめて高いが、プロソディーの面ではまったく異なる体系を持つ場合がある：ツォンガ語は声調言語だが、スワヒリ語はストレスアクセント言語である。日本語の方言も似たような状況にあり、統語構造はきわめて均質的だが、プロソディーが異なる。例えば、標準日本語にはピッチアクセントがあるが、会津方言にはピッチアクセントがない。

第二に、この研究は二つの言語語族の形態論的非対称性を取り入れている。バントゥー諸語はSOV語順で、接頭辞による一致システムを持つ。一方、日本語の方言はSVO語順であり、主要な文法機能は接尾要素によって表示される。

３．研究の方法

この研究は三つのフェーズに分かれて進行した。

第一フェーズ（2020年4月～2021年3月）では、名詞句内の不変化詞を対象とした。ツォンガ語とスワヒリ語では、すべての名詞にその名詞が属する名詞クラスを示すクラス接頭辞が接合する。ツォンガ語の例 [ú ʃáßá tí-ŋgulußetimbi:rí]「彼は2匹の豚を買う」に示されているように、名詞の接頭辞（ここではtí-ŋgulußeのtí-）は後続の名詞句から独立して動作することがあり、韻律的には前の要素（ここでは動詞 ú ʃáßá）の一部になることを示唆している。一方、標準日本語では、名詞接尾辞がピッチアクセントを引き寄せたり中和したりする。2020 年初頭からのコロナ禍で、第一フェーズでは日本語不変化詞の目録作成、また日本語での刺激文を構築し、リモートで録音と分析を行った。海外の調査がしばらくむずかしくなって、ツォンガ語とスワヒリ語のバントゥー語のデータ収集については限定的に実施された。ツォンガ語は以前収集したデータから関連性があるデータを整理して分析した。スワヒリ語は毎週オンラインでスワヒリ語の専門家である宮﨑久美子氏と阿部優子氏との共同調査によってコーパスデータを収集し分析した。

第二フェーズ（2021年4月～2022年3月）では、まだ現地調査が不可能だったため、引き続き標準日本語のプロソディーに集中した。標準日本語における二つの修飾形容詞を含む名詞構造のプロソディーに関して、フォーカスの有無を条件としてデータを収集し分析した。スワヒリ語に関しては、名詞および動詞との関係において、排他的フォーカス（exclusive focus）を表示する不変化詞 [tu] に関してオンラインで調査を行った。ツォンガ語も疑問不変化詞 xana と三つの修飾語が名詞の後ろに現われる文章の構造のデータを収集した。ツォンガ語の名詞句内の構成要素は自由語順を見せるが、すべての語順が同じ意味を持つかを調べた。

第三フェーズ（2022年4月～2024年3月）でも、コロナの影響でほとんどの活動をオンラインで行った。動詞と他の文法不変化詞のプロソディーの調査を行った。日本語、スワヒリ語、ツォンガ語の分析を続けて学会で発表した。

４．研究成果

（１）日本語の不変化詞の研究は三つの論文と四つの研究発表によって発信された。ピッチアク

セントのプロソディーへの影響に関して二つの形容詞を含む名詞句を調べた結果、アクセントタイプ（平板型・起伏型）に従ってフレージングの形が変わるのがわかった。特に起伏型が平板型の前に出てくる時、再帰的な構造が主に実現された。

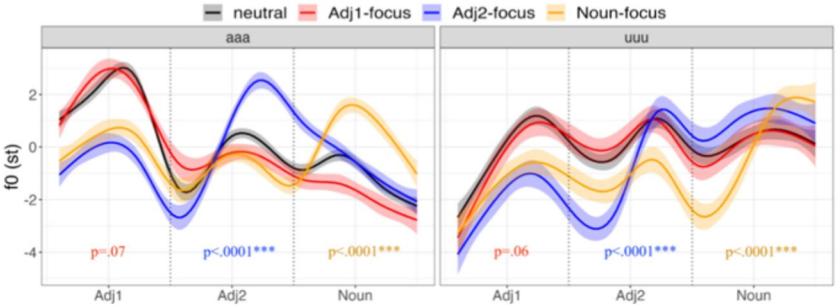
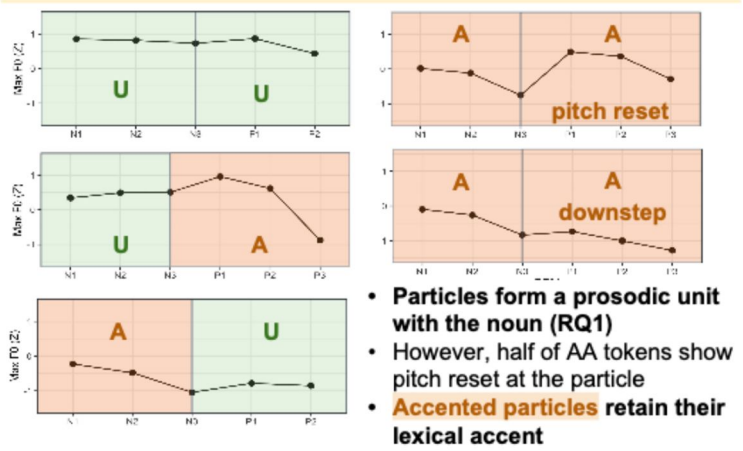
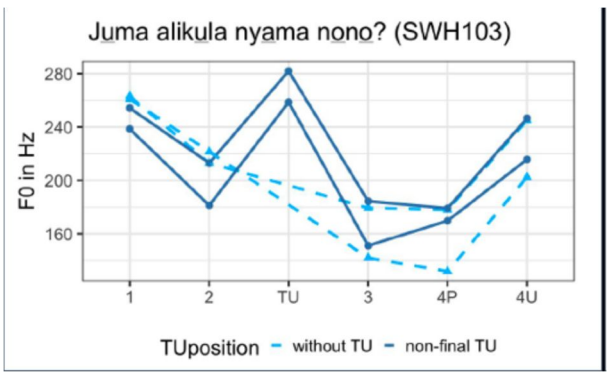


Fig. 2: F0 smooths over normalized time by accent (left: /aaa/, right: /uuu/). P-values indicate GAMM differences of each focus condition. Overlap in shaded areas indicate a lack of difference.



同じ構造のプロソディーについて、フォーカスとの関連についても調査した。2番目の形容詞と名詞については、フォーカスを受けるとピッチが上がるのに対して、1番目の形容詞については、フォーカスからの影響がないことが明らかになった [1]。また、ピッチアクセントと不変化詞のプロソディーに関して、不変化詞は通常は先行名詞と一つのユニットを形成するが、起伏型のアクセントを有する不変化詞だけは基底形のアクセントを守ることが観察された [2，3]。さらには起伏型のアクセントの実現について、男女差が観察された [4]。

（2）ツォンガ語の研究の結果では、新たな統語–プロソディー理論を提案した。統語構造とプロソディー構造のマッチングはインターフェイスレベルで行われると提案した [5] が、これは、マッチングが音韻レベルで行うと考えられていた従来の理論とは異なる。ツォンガ語の不変化詞を含む声調パターンは、語彙のスペルアウトや単語の線形化とともに、インターフェイスレベルでマッチングが起こることを示している。他方、ツォンガ語のプロソディーと語順を中心に、二つの形容詞を含む名詞句でも比較した [6]。ツォンガ語において名詞句の内部要素の語順は比較的自由だが、焦点句が導入される場合に非基本語順をとる傾向があることを示した。フォーカスを受けたフレーズは全音節の長さが長くなるが、Hの拡張パターンは予測されたプロソディーの構造と変わらない。そのほかに、ツォンガ語の代名詞のイントネーションに関する初期調査の結果を報告した [7]。



（3）スワヒリ語の研究では、排他的フォーカスを表示する tu の音調実現に関して、従来の理解では不十分であり、補足的な説明が必要であることがわかった。コーパスの研究から、tu は名詞句、動詞句、前置詞句など多くの種類の句を制限できるという、先行研究では十分に指摘されてこなかった性質が明らかになった。プロソディー研究では、この不変化詞が文全体のプロソディーに影響を与えるのではなく、tu のピッチを上げることによって tu のプロソディーにのみ影響を与えることが示された [8]。

本プロジェクトでは、日本語、ツォンガ語、スワヒリ語のさまざまな不変化詞について研究した。上述した研究成果を総括すると、日本語では、アクセントのある不変化詞はアクセントを保持することが示された。ツォンガ語の不変化詞は、プロソディー句を形成する条件が満たされた場合、前の要素に連結することが示された。また、スワヒリ語の接頭辞にはツォンガ語のような独立性はないが、不変化詞 tu は特別なプロソディーを示す。不変化詞がプロソディーから独立しているかどうかは、その語彙的地位によって決まる。

参考文献

[1] Furusawa, Rina, Le Xuan Chan, Rin Tsujita, Seunghun J. Lee (2023) Prosody of corrective focus in Japanese complex DPs. In: Radek Skarnitzl & Jan Volín (Eds.), Proceedings of the 20th International Congress of Phonetic Sciences (pp. 1444-1448). Guarant International.

[2] Chan, L.X., Furusawa, R., Lee, S.J. (2023) Variable Pitch Accent and Prosodic Phrasing in Japanese Adjectival Complex DPs. Proc. The Second International Conference on Tone and Intonation, 88-92, doi:10.21437/TAI.2023-19

[3] Chan, Le Xuan, Rina Furuawa, Rin Tsujita, Seunghun J. Lee (2023) Prosodic Realizations of Accented and Unaccented postpositions in Japanese. HISPhonCog, Hanyang University, Seoul, Korea. May 26, 2023.

[4] Chan, Le Xuan, Keitaro Mitsuhashi, Kotone Sato, Rina Furusawa, Rin Tsujita, Seunghun J. Lee (2022) The prosodic realizations of accented words after NPI: Gender-based differences. Japanese Prosody and Grammar 6, January 30, 2022.

[5] Lee, Seunghun J. & Elisabeth Selkirk (2022) Xitsonga Tone: the Syntax-Phonology Interface. In (eds.) Haruo Kubozono, Junko Ito & Armin Mester (eds.), Prosody and Prosodic Interfaces. Oxford: Oxford University Press. pp.337-373.

[6] Lee, Seunghun J., and Kristina Riedel (2023.6) Recursivity and Focus on the Prosody of Xitsonga DPs. Languages 8, no. 2: 150. https://doi.org/10.3390/languages8020150

[7] Lee, Seunghun J. (2021) The prosody of weak and strong pronouns in Xitsonga. Roundtable Prosody of Pronouns. May 19, 2021. University of Frankfurt am Main (hosted by Frank Kügler).

[8] Lee, Seunghun J, Shigeto Kamano, Yuko Abe, Kumiko Miyazaki (2023.8) Prosodic prominence of Swahili TU in polar interrogatives. In: Radek Skarnitzl & Jan Volín (Eds.), Proceedings of the 20th International Congress of Phonetic Sciences (pp. 1489-1493). Guarant International.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計19件（うち査読付論文　13件／うち国際共著　9件／うちオープンアクセス　17件）

１．著者名 Lee Seunghun J.、Selkirk Elisabeth	４．巻 1
２．論文標題 Xitsonga tone: The syntax-phonology interface	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Prosody and prosodic interfaces	６．最初と最後の頁 337～373
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1093/oso/9780198869740.003.0012	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

１．著者名 李 勝勲、倉部 慶太、品川 大輔	４．巻 1
２．論文標題 少数言語のデジタルアーカイブ：PhoPhoNOとBantuDArc	５．発行年 2023年
３．雑誌名 言語資源ワークショップ発表論文集 = Proceedings of Language Resources Workshop	６．最初と最後の頁 387～391
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15084/00003753	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 鈴木 成典、五十嵐 陽介、李 勝勲	４．巻 1
２．論文標題 NINJAL データベースを活用した言語研究の実施について	５．発行年 2023年
３．雑誌名 言語資源ワークショップ発表論文集 = Proceedings of Language Resources Workshop	６．最初と最後の頁 79～82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15084/00003726	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Lee, Seunghun J. & Kristina Riedel	４．巻 62
２．論文標題 Pre-nominal DP modifiers and penultimate lengthening in Xitsonga	５．発行年 2021年
３．雑誌名 Stellenbosch Papers in Linguistics	６．最初と最後の頁 107-134
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5842/62-0-907	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Fukuda, Masaki, Kosei Kimura, Reed Blaylock, Seunghun J. Lee	4．巻 18
2．論文標題 Scope of Beatrhyming: Segments or Words	5．発行年 2022年
3．雑誌名 International Christian University Working Papers in Linguistics	6．最初と最後の頁 59-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34577/00005035	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Lee, Seunghun J.	4．巻 63
2．論文標題 Phonetics of geminate nasals in Kiribati	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Educational Studies	6．最初と最後の頁 57-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34577/00004791	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Lee, Seunghun J.	4．巻 52
2．論文標題 A preliminary study on the intonation of Kiribatiinterrogatives	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Reports of the Keio Institute of Cultural and Linguistic Studies	6．最初と最後の頁 121-132
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Shinagawa, Daisuke	4．巻 0
2．論文標題 Aspects of linguistic dynamism in Sheng as Kenyan Colloquial Swahili: Focusing on de-standardisation and re-vernacularisation	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Dynamisn in African Languages and Literature: Towards conceptualisation of African potentials	6．最初と最後の頁 89-119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Shinagawa, Daisuke	4．巻 0
2．論文標題 Aspects of linguistic dynamism in Sheng as Kenyan Colloquial Swahili: Focusing on de-standardisation and re-vernacularisation	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Dynamisn in African Languages and Literature: Towards conceptualisation of African potentials	6．最初と最後の頁 89-119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Masilela, Piet, Daisuke Shinagawa, Bafana Mathibela	4．巻 0
2．論文標題 South Ndebele (S407)	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Descriptive materials of morphosyntactic microvariation in Bantu vol. 2: A microparametric survey of morphosyntactic microvariation in Southern Bantu languages	6．最初と最後の頁 257-331
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15026/99967	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Lee, Seunghun J.	4．巻 0
2．論文標題 Aspects of Xitsonga tone	5．発行年 2021年
3．雑誌名 アフリカ諸語の声調・アクセント	6．最初と最後の頁 303-322
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15026/99925	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 松浦年男	4．巻 58(2)
2．論文標題 天草市本渡方言のアクセント資料(3)	5．発行年 2021年
3．雑誌名 北星学園大学文学部 北星論集	6．最初と最後の頁 93-101
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 品川大輔	4．巻 0
2．論文標題 ロンボ語（E623）の声調パターン概観	5．発行年 2021年
3．雑誌名 アフリカ諸語の声調・アクセント	6．最初と最後の頁 177-214
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15026/99920	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Barrie, Michael Jonathan Mathew Barrie, Seunghun J. Lee and Crous Hlungwane	4．巻 24
2．論文標題 Locative Inversion and Passivization in Xitsonga	5．発行年 2023年
3．雑誌名 Journal of Cognitive Science	6．最初と最後の頁 81-102
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.17791/jcs.2023.24.1.81	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Chan Le Xuan、Furusawa Rina、Lee Seunghun J.	4．巻 2
2．論文標題 Variable Pitch Accent and Prosodic Phrasing in Japanese Adjectival Complex DPs	5．発行年 2023年
3．雑誌名 Proc. The Second International Conference on Tone and Intonation	6．最初と最後の頁 88-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.21437/TAI.2023-19	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Furusawa, Rina, Le Xuan Chan, Rin Tsujita, Seunghun J. Lee	4．巻 2
2．論文標題 Prosody of corrective focus in Japanese complex DPs	5．発行年 2023年
3．雑誌名 Proceedings of the 20th International Congress of Phonetic Sciences	6．最初と最後の頁 1444-1448
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Lee, Seunghun J, Shigeto Kamano, Yuko Abe, Kumiko Miyazaki	4．巻 20
2．論文標題 Prosodic prominence of Swahili TU in polar interrogatives	5．発行年 2023年
3．雑誌名 Proceedings of the 20th International Congress of Phonetic Sciences	6．最初と最後の頁 1489-1493
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Kamano, Shigeto, Chikau Sakamoto, Rin Tsujita, Seunghun J. Lee	4．巻 20
2．論文標題 Segmental and suprasegmental modification in Rakugo-style Japanese Form of presentation	5．発行年 2023年
3．雑誌名 Proceedings of the 20th International Congress of Phonetic Sciences	6．最初と最後の頁 3677-3681
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Lee Seunghun J.、Riedel Kristina	4．巻 8
2．論文標題 Recursivity and Focus in the Prosody of Xitsonga DPs	5．発行年 2023年
3．雑誌名 Languages	6．最初と最後の頁 150～150
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/languages8020150	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕　計37件（うち招待講演　8件／うち国際学会　19件）

1．発表者名 Shinagawa, Daisuke; Lee, Seunghun J.; Maselli, Lorenzo
2．発表標題 Postnasal trilling in Bantu crosslinguistic variation and typology overview
3．学会等名 9th international conference on bantu languages（国際学会）
4．発表年 2022年

１．発表者名 Lee, Seunghun J.; Hlungwani, Crous M.; Barrie, Michael
２．発表標題 Locative inversion in Xitsonga
３．学会等名 9th international conference on bantu languages（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Seunghun J. Lee
２．発表標題 A modular theory of the relation between syntactic and phonological constituency
３．学会等名 Colloquium, University of Frankfurt（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Ashida, Mana; Lee, Seunghun J.; Kim, Jin-dong
２．発表標題 COVID-19 Mythbusters in World Languages
３．学会等名 The Language Resources and Evaluation Conference (LREC 2022 organized by the European Language Resources Association（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Seunghun J. Lee
２．発表標題 Sounds of languages in Southern Africa
３．学会等名 NYI Global Institute of Cultural, Cognitive and Linguistic Studies（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Lee, Seunghun J.; Hlungwani, Crous M.
２．発表標題 Showcasing remote collaboration in linguistic research
３．学会等名 The 5th SOUTH AFRICA- JAPAN UNIVERSITY (SAJU) FORUM（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 李勝勲，倉部慶太，品川大輔
２．発表標題 少数言語のデジタルアーカイブ：PhoPhoNOとBantuDArc
３．学会等名 言語資源ワークショップ2022，NINJAL
４．発表年 2022年

１．発表者名 Hannah Gibson, Crous Hlungwani, Seunghun Lee & Kristina Riedel
２．発表標題 Auxiliary constructions in Xitsonga revisited
３．学会等名 2022 ALASA Biennial International Conference（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Lee, Seunghun J.; Furusawa, Rina; Tsujita, Rin; Chan Le Xuan
２．発表標題 Intonation of sentences with an adverbial NPI varying in accent patterns
３．学会等名 Thirty-Sixth General Meeting of the Phonetic Society of Japan
４．発表年 2022年

１．発表者名 Kamano, Shigeto; Sakamoto, Chikau; Tsujita, Rin; Lee, Seunghun J.
２．発表標題 落語における母音産出
３．学会等名 Thirty-Sixth General Meeting of the Phonetic Society of Japan
４．発表年 2022年

１．発表者名 Seunghun J. Lee
２．発表標題 バントゥ諸語アーカイブの構築とアーカイブデータの活用について
３．学会等名 第18回CODHセミナー マイクロ類型論とデジタルアーカイブ構築：バントゥ諸語と日琉諸語の事例から（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Suzuki, Michinori; Lee, Seunghun J.
２．発表標題 Phonetic Cues in the Production of Voicing Contrast in Tohoku and Tokyo Japanese: a database study
３．学会等名 Thirty-Sixth General Meeting of the Phonetic Society of Japan
４．発表年 2022年

１．発表者名 Kamano, Shigeto, Yuko Abe, Kumiko Miyazaki, Seunghun J. Lee
２．発表標題 Prosodically prominent clitic: the exclusive particle tu in Swahili
３．学会等名 Prosody and Grammar 6
４．発表年 2022年

１．発表者名 Chan, Le Xuan, Keitaro Mitsuhashi, Kotone Sato, Rina Furusawa, Rin Tsujita, Seunghun J. Lee
２．発表標題 The prosodic realizations of accented words after NPI: Gender-based differences in Japanese
３．学会等名 Prosody and Grammar 6
４．発表年 2022年

１．発表者名 Riedel, Kristina, Seunghun J. Lee
２．発表標題 Focus word order and Penultimate Lengthening in Bantu languages
３．学会等名 54th Annual Meeting of the Societas Linguistica Europaea（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Lee, Seunghun J.
２．発表標題 Intonation of Xitsonga Pronouns
３．学会等名 The 58th Annual Meeting of Japan Association for African Studies (JAAS)
４．発表年 2021年

１．発表者名 Lee, Seunghun J.
２．発表標題 The prosody of weak and strong pronouns in Xitsonga
３．学会等名 Roundtable Prosody of Pronouns（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Lee, Seunghun J.
２．発表標題 Two types of rising intonation in Kiribati inter-rogatives
３．学会等名 Prosody and Grammar Festa 5
４．発表年 2021年

１．発表者名 Shen Hong and Lee, Seunghun J.
２．発表標題 The internal structure of prosodic words and tone sandhiin Nuosu Yi.
３．学会等名 Phonology Festa 2021
４．発表年 2021年

１．発表者名 Lee, Seunghun J. and Woonho Choi
２．発表標題 A quantitative study of the syntax-prosody interfacein two varieties of Korean
３．学会等名 Phonology Festa 2021（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Asai, Honoka, Le Xuan Chan, Kotone Sato, Michinori Suzuki,Seunghun J. Lee
２．発表標題 A pre-liminary study of the prosody of Japanese DP with two adjectival modifiers
３．学会等名 Linguistics Festa 2021
４．発表年 2021年

１．発表者名 Lee, Seunghun J.
２．発表標題 Acoustics of vowel phonation in Burmese Mon
３．学会等名 The 34th General Meetingof the Phonetic Society of Japan. September 26-27
４．発表年 2020年

１．発表者名 Guillemot, Celeste,Seunghun J. Leeand Jeremy Perkins
２．発表標題 The retroflex tongue position inDrenjongke (Bhutia)
３．学会等名 2020 Summer Southeast Asia Conference Program（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Guillemot, Celeste andSeunghun J. Lee
２．発表標題 Phonetic Variation of a Phonological Target:Voiceless Nasals in Drenjongke
３．学会等名 2020 The Spring Meeting of the Phonological Society of Japan
４．発表年 2020年

１．発表者名 Lee, Seunghun J.
２．発表標題 Voicing and phonation in African languages using Electroglottograph
３．学会等名 The 57th Annual Meeting of the Japan Association of African Studies
４．発表年 2020年

１．発表者名 松浦年男
２．発表標題 九州諸方言の与格助詞に見られる音韻交替
３．学会等名 国立国語研究所プロソディー研究班オンライン研究発表会（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 松浦年男
２．発表標題 天草市本渡方言における呼びかけのイントネーション
３．学会等名 日本言語学会第161回大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 Abe, Yuko; Lee, Seunghun, Shinagawa, Daisuke
２．発表標題 A Morphosyntactic Survey of Microvariation of Southern Bantu languages: A pilot case of a collaborative linguistic research in African contexts
３．学会等名 韓国アフリカ学会2020年後期学術会議（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 品川大輔
２．発表標題 バントゥ諸語における否定とフォーカスのインタラクション：マイクロバリエーション研究からのアプローチ
３．学会等名 東京外国語大学語学研究所定例研究会
４．発表年 2020年

１．発表者名 Shinagawa, Daisuke, Junko Komori
２．発表標題 Stop series in Niger-Congo
３．学会等名 ILCAA Joint Research Project "Studies in Asian and African Geolinguistics" The first meeting（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Shinagawa, Daisuke, Junko Komori
２．発表標題 Grammatical relations in Niger-Congo
３．学会等名 ILCAA Joint Research Project "Studies in Asian and African Geolinguistics" The second meeting（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Chan, Le Xuan, Rina Furuawa, Rin Tsujita, Seunghun J. Lee
２．発表標題 Prosodic Realizations of Accented and Unaccented postpositions in Japanese
３．学会等名 HISPhonCog, Hanyang University, Seoul, Korea（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Lee, Seunghun J.
２．発表標題 Free Word Order and Prosody in Complex DPs in Xitsonga
３．学会等名 Rencontres du Reseau Francais de Phonologie (RFP2023)（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Furusawa, Rina, Le Xuan Chan, Rin Tsujita, Seunghun J. Lee
２．発表標題 Prosody of corrective focus in Japanese complex DPs
３．学会等名 International Congress of Phonetic Sciences (ICPhS) 2023（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Kamano, Shigeto, Chikau Sakamoto, Rin Tsujita, Seunghun J. Lee
２．発表標題 Segmental and suprasegmental modification in Rakugo-style Japanese Form of presentation
３．学会等名 International Congress of Phonetic Sciences (ICPhS) 2023（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Lee, Seunghun J, Shigeto Kamano, Yuko Abe, Kumiko Miyazaki
２．発表標題 Prosodic prominence of Swahili TU in polar interrogatives
３．学会等名 International Congress of Phonetic Sciences (ICPhS) 2023（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Chan, Le Xuan, Rina Furusawan, Seunghun J. Lee
２．発表標題 Variable pitch accent and prosodic phrasing in Japanese adjectival complex DPs
３．学会等名 The second international conference on Tone and Intonation (TAI 2023)（国際学会）
４．発表年 2023年

〔図書〕　計3件

1．著者名 LEE, Seunghun J., THEMBHANI, Babane Morris & HLUNGWANI, Madala Crous	4．発行年 2022年
2．出版社 ILCAA	5．総ページ数 203
3．書名 Aspects of Xitsonga Grammar	

1．著者名 Lee, Seunghun J., Yuko Abe, Daisuke Shinagawa	4．発行年 2021年
2．出版社 ILCAA	5．総ページ数 428
3．書名 Descriptive materials of morphosyntactic microvariation in Bantu vol. 2: A microparametric survey of morphosyntactic microvariation in Southern Bantu languages	

1．著者名 筑紫日本語研究会	4．発行年 2021年
2．出版社 風間書房	5．総ページ数 518
3．書名 筑紫語学論叢III	

〔産業財産権〕

〔その他〕

Bantu Language Digital Archive (BantuDArc)
https://bantudarc.aa-ken.jp/
Bantu Language Digital Archive: Xitsonga
https://bantudarc.aa-ken.jp/xitsonga.html
Bantu Language Digital Archive: Swahili
https://bantudarc.aa-ken.jp/swahili.html
POP (AY20-22)
https://sites.google.com/info.icu.ac.jp/linglab/projects/pop-ay20-22

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	品川　大輔 (Shinagawa Daisuke) (80513712)	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授 (12603)	
研究分担者	松浦　年男 (Matsuura Toshio) (80526690)	北星学園大学・文学部・教授 (30106)	

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	阿部　優子 (Abe Yuko)	Ｌａｎｚｈｏｕ　Ｕｎｉｖｅｒｓｉｔｙ	スワヒリ語専門家
研究協力者	宮崎　久美子 (Miyazaki Kumiko)	Ｔｈｅ　Ｓｔａｔｅ　Ｕｎｉｖｅｒｓｉｔｙ　ｏｆ　Ｚａｎｚｉｂａｒ	スワヒリ語専門家
研究協力者	フルングァニ　クラウス (Hlungwani Crous)	Ｕｎｉｖｅｒｓｉｔｙ　ｏｆ　Ｖｅｎｄａ	ツォンガ語専門家

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関